



2010.5.19 UP!

**日記** レビューコンテスト熱血開催中!

第5回を迎えるレビューコンテスト、告知は以前からしていましたが、いよいよ今週から募集期間に入ります。

毎年恒例になった情報館のレビューコンテスト。情報館2Fカウンター前では、前回の入賞作品や、「伝わる」文章を書くための参考資料などを展示しています。



今年は黄色いポスターが目印



昨年の入賞作品の数々。



今年の参加賞はこちらのブックカバー3種の中から好きなものをプレゼント！レトロな風合いがかなりいい感じです。

そして、注目はこちら!!



入賞者に贈られる、情報館オリジナル・ステンレスマグです。写真では見にくいですが、新着コーナーのピクトが印刷されています。デザインを行った私自身が言うのもなんですが、かなりかわいいです。ほしいです。

他にも、優秀作品には豪華賞品があります。私が学生だったら間違いなく応募しますが、もちろん無理なので、みなさんは是非チャレンジしてみてください。

2010.5.20 UP!

**日記** mediachips アウトプット展

ただいま情報館3Fにて、「media chips アウトプット展 - デジクリ&情報館 × white-screen.jp 2009- 裏の裏まで見せちゃいます!」...とながーいタイトルの展示が行われています。



mediachips ってなんぞや?という、今をときめくクリエイターをゲストに開催する「デジクリ&情報館 × white-screen.jp」のイベント運営をする為に結成されたデザイン学科デジクリコース学生のチーム名なのです。なかなかかわいいなまえです。

入って正面にメンバーのイラストが、なかなか似てます。ちなみに、ブログもあります。展示の裏話も載っています。

今回は2009年度に開催した3つのイベントの報告展なのです。どんなブースがあるかざっくりご紹介。



こちらは task.1 映画監督三木聡さん。「インスタント沼」が有名です。講演会を行い明窓館の教室いっぱいにお客さんが来てくれました。こちらには企画立案からイベント終了後の会計処理まで!どんなふうイベントを運営しているのかが順番に展示されています。



続きはWEBで!

<情報館HP> <http://johokan.kyoto-seika.ac.jp>



こちらのバナーをクリック!

# 情's people

vol.34

**CONTENTS**

- 4p **情's つらみ** ギャラリーフロール for ビギナーズ
- 6p **情'S SELECTION**
- 8p **ちょっと! あんたら!**  
これ、\へえ / やで!
- 10p **情報館数珠** つなぎ
- 11p **パンダパンの絵本のへや** 1F 特集コーナー通信
- etc **情's 田舎劇場** from KYOTO 便り

巻頭特集 島本館長の

## リーディングガイド

ググる人へ ~GO! GO! めがねちゃん~ 番外編

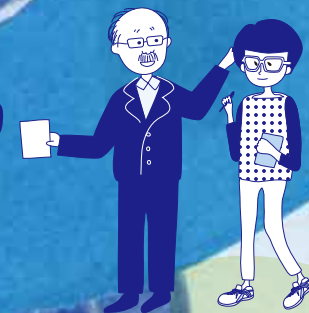


illustration by keiko

TAKE FREE

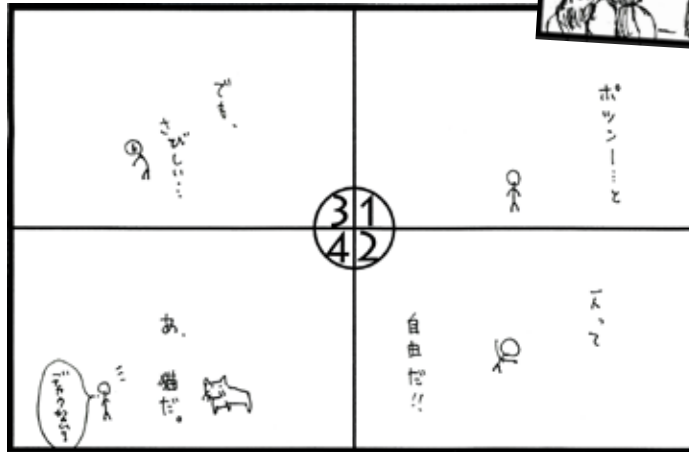




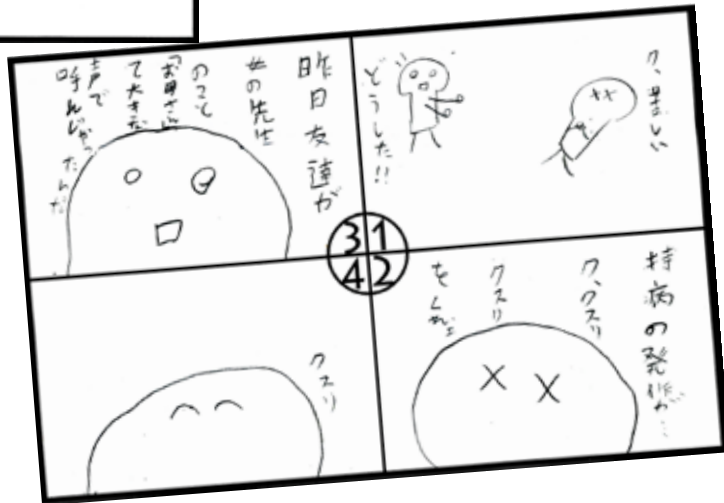
「オモラシトオスト」  
食パンチマ子・作



「温故知新」  
MOD's・作



「あ、猫だ。」  
メ切まもる・作



「あるよねえ」  
桑原ゆっくり・作

巻頭特集

島本館長の

# リーディング ガイド

ゴヴる人へ  
～GO! GO! めがねちゃん～  
番外編



こんにちは！めがねちゃんです。今回は情報館館長である島本先生に、読書についてアドバイスをもらってきました。学生生活の中で、私たちはどんな風に本とつきあっていけばいいのでしょうか。教えてくださいー！



## ① 難しい本はない

世の中に難しい本っていうのはないんですよ！難しいと感じるとすれば、ギョウカイの言説に馴れていないことが原因。これはギョウカイに入ったら、わかるようになります。ここでいう「ギョウカイ」っていうのは、ぼくで言えば、美術史だとか、芸術批評みたいな「領域」のこと。そういうギョウカイに入って読んだり聞いたりしていると、そこでの理論の語り口とか、考え方なんか理解できるようになってくるんです。難しい本というのには、そうしたギョウカイ馴れの問題があると思います。だから、難しいと思われるものを理解しようと思えば、少しはその世界に足を踏み入れる必要があると思います。それぞれの分野で、みんながある共通の語り口を持って

いる。だからコスメティックのギョウカイなんか僕、入れないんですよ。語り方の言葉は使いやすいけど、専門用語が非常に難しいってことと、そこで重要視されるファクターがなんなのかわからないから…。例えば芸術作品のことを考えるんだったら、ハイデッガーの『芸術作品の起源』のように、誰もがレファレンスする中心にある本っていうのがあるんですよ。それがギョウカイを作っているコアな部分なんで、入りたい人はここを読んでみないと…。うーん、例えば、家庭料理を作る領域も「ギョウカイ」と呼ぶとすると、上手にご飯が炊けないと、だしがとれないと駄目だよっていう感じ。

## ② 入門書は読むな

僕は、なるべく入門書は読まないようにって言うんだけど。「ハイデッカー入門」とか。つまらないから。入門書って世の中にたくさんあるけどそのスタイルってみんな同じなんです。入門書で語ってることっていうのは別にその著者が語ってるわけじゃなくて…すごく平凡になっちゃってつまらない。だから、本当に何かについて知りたいと思うのだったら、最初から全部わからなくてもいいから本番を読んでいった方が圧倒的におもしろい。おもしろいってうか、ためになる。わかりやすく書かれたメディア的な知識だけを入れるよりは、ちゃんと本を読んだ方がいいよ。例えば、「小説家のナントカ入門」なんて読んで、こんな小説があって、そこにはこんなことが書かれてます、なんてことを読んで、実際に本を読むのとは違うわけだから。

ギョウカイのことを外から見てわかりやすく話すために「入門編」があるけど、ギョウカイに入りたい人やギョウカイに入るおもしろさを求めたい人にとっては、「入門編」なんていうのはね…テレビのバラエティー見てるようなもんなんで。そりゃあおもしろいものもあるけれども、それを読めば芸術の領域のことがわかるかっていうとそれはいいです。だけど、まあ、表面的なわかり方も重要だったことで、みんな入門書書くんです。

書く側からしたら、入門書ほど難しいものもないですね。ある領域のいちばん面白いところを紹介するというのは。

## ③ 図書館に通え

学生の頃、ある先生に「いつも開架式の図書館に行って、どこにどんな本があるかだいたい全部インプットしろ」って言われたんですよ。どこの図書館でもその分野を勉強するために押さえておかなきゃいけない基本的な本っていうのが揃えられていて、専門の図書館になれば資料も専門的になるんだけど、新しい本が入ればそこへ加えられる。例えば、ぼくの美術史の領域だったら、それらの本のある場所に行って本を見るだけで、本を手取るだけで、だいたい全体の流れがわかってくる、ということなんです。そのために本当は日本語の本は帯を付けたまま入れておいた方がいいと思うんだけど…帯には、一言二言でわかりやすくその本の内容が説明されているんですよ。これはまあ、しょうがないんだけどね。外国の本は裏表紙に解説が、それも適切な内容がさーっと書いてあるから、それを読むだけで、ずいぶんわかる。

## ④ 本を手にとれ

ギョウカイに入って知識が増えてくると、インターネットなどを使って自分の読みたい物をピンポイントで探したりできるようになるけど、はじめての人は絶対に実物にあたるほうがいい。論文もね。それが載っている雑誌そのものを。どういう雑誌に、それもどうした内容が載っている論文の中に探している論文が載っているのかという、論文の位置みたいなことが実感できるから。

本を手にとるということで言うと、巻末に参考資料の一覧なんか載ってるでしょ？雑誌の論文も載ってる。こういうのを見るためにも実物にあたるのがわかりやすいし、次第に自分の中の情報量が増えてくる。

19世紀から20世紀まで、ずっと、本っていうのは「内容」なんだよね。何かについて書かれた、その内容が本だと考えているわけだけど、今ではその考え方が少し変わってきて、本はもっと総合的なものといったらいいか、そんな風に見ようというようになってきている。装丁とか、文字、見開きのレイアウト、目次、索引、そういったすべてから本が成り立っているということですね。こういうものが読書にも影響を与えていて、というか、それも含めて本を読むということがあるんだと。本はずっと内容主義だったけど、そうじゃない部分もあるよということがすごく言われるようになって、本のトータル性が注目されてきてるんですね。「本を手にとれ」というのは、こうした意味でもあるんです。

近代は内容中心主義になりすぎておもしろさの幅を狭めた。近代って言うのは「抜いていくシステム」でしょう？「抜く」というのは全体からポイントだけを抜くという感じだけど、それによってある統一的な型にはめていくということでもある。例えば、美術館なんかはその典型なんだけど、白い壁に、一点の絵画をただ掛けて、「内容を見るよ」みたいな感じでしょ？雑に扱っちゃいけない。だけど、実際には、19世紀までの展示なんか見てたら、そんな、壁に一点なんてことあり得ないんですよ。そうした19世紀の枠組みが、もちろん、現在、本や図書館でも崩れてき始めたことはあるでしょう。決定的なのが、本の世界に電子媒体が入り込んできたということかもしれない。よく言われていることだけど。となると、ますます内容主義だよ。ただ、mac かっていいとか、iPod かっていいとか、そういうマシンのような「もの」と「情報」がこれからどんな風に結びついていくかはわからないけど。これは歴史の中でも、本の中でもあったことだから。

## ⑤ 「理屈」

精華の「ものを作る子」の中には基本的に本に関心がない子もいて、理論の好きな子は少数派。理屈派のぼくとしては、理屈嫌いの学生たちを何とか振り向かせたいとは思っているんですが。理屈嫌いの学生が何か作品を作って、それを「理屈で説明するのが嫌いです」って言ったら、「それを言うこと自体が理屈なんだ。ほら、理屈言っているじゃない」って(笑)。そのこと、わかってないと、世の中に出て行けないよって。作品の中に言葉が組み込まれちゃってるので、そのことをわかってほしいな、と。そんなこと無視して、バカなロック少年みたいに「言葉なんかいらないよー」って言ってもね。「理屈」というのは、別に哲学的に難解な言葉を使うことではなくて、自分とものと人との関係の感覚的な部分もわかろうとしながら、関係を論理的に話すということで、言ってみれば、コミュニケーションの基礎ということ。言葉を持っていること自体、人間は理屈の生き物ということかな。だから本が好きになるのかもしれない。



島本 洸 SHIMAMOTO Kan  
芸術学部教授。専門分野は美術史。2002年京都精華大学へ。05年から情報館の館長を勤める。専門書として『美術カタログ論—記録・記憶・言説』（三元社）他、論文多数。

## この一冊！

『美術史の基礎概念：近世美術における様式発展の問題』

ハインリヒ・ヴェルフリン著；海津忠雄訳 慶応義塾大学出版会 3F 閲覧室 702.05||W 84

感動の一冊、というものではないけど、古典中の古典なので取り上げました。これを書いたヴェルフリンは19世紀の人です。例えばここにある絵があって、その横に別の絵があって、これをなんとなく「形が違うな」と比較して、なんで違うんだろうなというのを考える美術の見方を組み立てた人なんです。それまでなかったんですよ。

年代順に追って行って、ルネサンスのときはこんな絵です、こんな形をしていました、こんな描き方をしていました、そして2世紀くらい経つとこうなりました、っていうようなことに注目させた本です。これは美術史というギョウカイを作った本でもあって、ここから美術館の時間軸にそった展示もでてくるようになった。僕たちはそれが不思議とは思わず、過去から現在へと作品を自然に見ていくようになっていく。こんなことをやる理論的基礎が、このヴェルフリンだったということですね。

ヴェルフリンは、ある意味で、美術館という制度の基礎をつくった人とも言える。美術館というのは、美術を論理的に「見る」空間として考えられた場所で、作品を「見る」ことを教えてくれもする。言葉による知識を与えてくれる図書館の視覚物ヴァージョンですね。歴史的には図書館の方がずっと古いけど、美術館は図書館をモデルとして誕生してきたところもある。美術館の誕生によって、視覚物の習得も大切だということが考えられてきたということですね。その視覚物の代表として絵画の歴史をモデルに考えることを始めたのが、この本ということになるのかな。

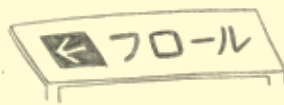


おしらせ

島本先生の読書話をもっと聞いてみたいというあなた！情報館では毎月ゲストをお迎えして、リーディングラボを開催しています。ぜひお越し下さい。 ※詳しくはHPを見てね

情'sつらみ

# ギャラリーフロール for ビギナーズ



文・馬場暁子（情報館情報館課博物館部門）

## 「博物館部門」って？

ギャラリーフロールを運営している部門。  
ギャラリーフロール（博物館部門）カウンターは、情報館2階にあります。  
ご用のかたは、チャイムでスタッフをお呼びくださいね。



## ホップ 閲覧／視聴する

ギャラリーフロールの関連資料として、  
情報館3階「図録」コーナーでは発行したカタログを、  
1階「セイカインディーズ」コーナーでは映像資料を、ご覧いただけます。

## ステップ 検索する

約12,000点の所蔵品の作品データを、画像とともにご覧いただけます。  
ギャラリーフロール所蔵品検索システム <http://fleur.kyoto-seika.ac.jp>

## ジャンプ 展覧会をする

在学生および卒業生や教職員の皆さんによる展覧会（申請展）を、  
募集しています。詳しい情報は、ギャラリーフロールのウェブをチェック！

## 行ってみる

といっても街へ出るのではなく、  
京都精華大学ギャラリーフロールは  
学内にあるギャラリー。  
明窓館1階に、  
出入り口があります。



## 入ってみる

学外の美術館と同じく、  
飲食や写真撮影はNGのため、ちゅうい！  
作品についてのおしゃべりは、  
ちいさな声でぜひ。  
階段をのぼって、  
2階の展示スペースへどうぞ。



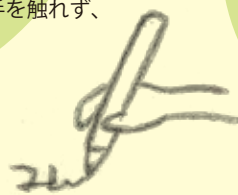
## 観てみる

まずは作品を観てみましょう。  
近づいたり離れたったりして、よく観ます。  
それと同時に、あなたの心の動きもよく観察。  
その後に、キャプションやパネルまた配布資料など、  
興味がわいたら読んでみましょう。  
作品についての何かを知ることができたり、  
この作品あのセンパイの！？と、  
意外な出会いがあったりするかも。  
所蔵品や学外の作品を紹介する展覧会、  
在学生や卒業生また教職員の皆さんの展覧会など、  
どの展覧会でもたいせつな作品にはお手を触れず、  
「目」を使って触れてくださいね。



## 書いてみる

芳名カードへ、  
よろしければあなたのお名前をお書きください。  
また感じたことや考えたことも  
書いていただけたらうれしいです。  
そのときあなたと会えなかった展覧会の主催者は、  
気になるあの子ども観にきてくれたんだー、  
と後からわかったりします。



## 思い出してみる

授業の合間に、学食で、帰り道で、家へ帰ってから……などなど、  
作品のことやそのとき感じたことを思い出してみてください。  
めっちゃ気になる作品があったときは  
もう一度、ギャラリーへ足を運ぶもよし。友だちへ話すもよし。  
またちがった印象を受けたり、あたらしい発見があるかも。



## 京都精華大学ギャラリーフロール

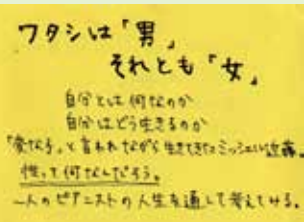
開館日：展覧会開催期間  
開館期間中の休館日：日曜日・祝日・大学が定めた日  
開館時間：10:30-18:30  
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/fleur>

# 情'S SELECTION

情報館スタッフが  
NDCの分類ごとに情報館資料を  
セレクトするコーナーです。



## PICK UP !



『変な子と呼ばれて：  
ミッシェル・近藤の人生』  
吉永みち子著 筑摩書房  
3F わかばコーナー 762.1||Mi 53

## 000 総記



『著作権に気をつけろ!』  
富樫康明著 勉誠出版  
3F 閲覧室 021.2||To 21

## 100 哲学



『王朝貴族のおまじない』  
繁田信一著 ビイグ・ネット・プレス  
3F 閲覧室 147.1||Sh 29

## 200 歴史



『古文書はじめの一步』  
油井宏子著 柏書房  
3F 閲覧室 210.02||A 14

## 300 社会科学

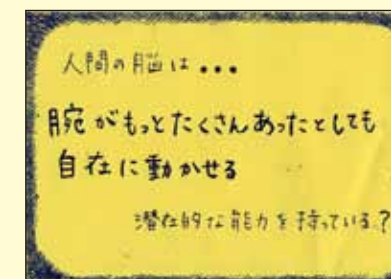
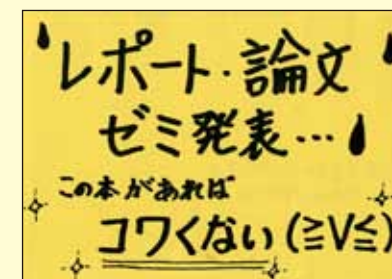
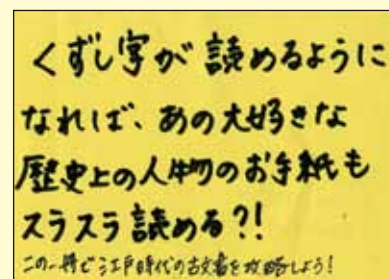
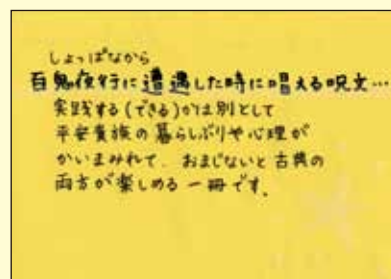
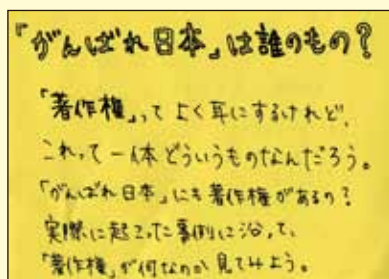


『大学生学びのハンドブック』  
世界思想社編集部編 世界思想社  
3F 閲覧室 377.15||Se 22

## 400 自然科学



『進化しすぎた脳』  
池谷裕二著 朝日出版社  
3F 閲覧室 491.371||I 33



## 500 技術



『新・日向市駅:GS 群団総力戦』  
篠原修, 内藤廣, 辻喜彦編著 彰国社  
3F 閲覧室 518.8||Sh 62

## 600 産業



『樹皮ハンドブック』  
林将之著 文一総合出版  
3F 閲覧室 653.2||H 48

## 700 芸術



『東京の郷土玩具』  
横山宗一郎著 芳賀書店  
3F 閲覧室 759.9||Y 79

## 800 言語

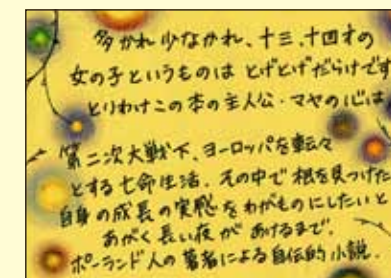
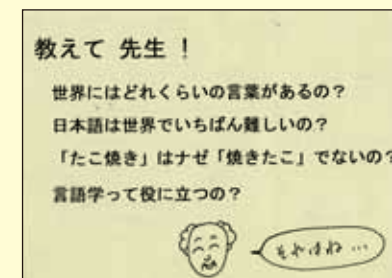
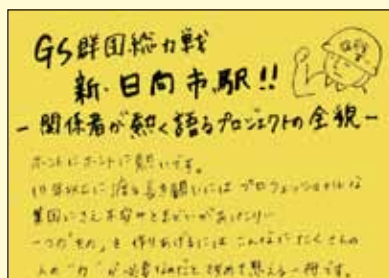


『はじめてみよう言語学』  
佐久間淳一著 研究社  
3F 閲覧室 801||Sa 45

## 900 文学



『夜が明けるまで』  
マヤ・ヴォイテホフスカ作 岩波書店  
3F 閲覧室 909.9||I 95



新連載 ちょっと！あんたら！

これ、へえー / やで！



みんな気付いてないかもしれないけど、情報館にはこんなにもおもしろい資料があるんです。知らなきゃ損損！「へえー…。そうなんだー。見てみたい！」と思ったあなたは情報館へGO！

今回の、へえー / な資料はこちら！

『滑稽新聞：完全版』 小野村夫 [主筆] ゆまに書房 B1F 閲覧室 726.1||Mi 85

『The illustrated London news』 The Illustrated London News 刊行会編集 柏書房 B1F 大型 073.3||I 39

実は、今回ご紹介している2点の資料は、この春に情報館で開催された「情報館へようこそ」展で紹介されていた資料なのです。地下閲覧室に並べられていた資料の数々がスタッフの間で、「おもしろいセレクトだ！」とちょっとした評判になっていました。資料につけられていたPOPを見てみましょう。

#### The Illustrated London News (柏書房)

産業革命をきっかけに世界情勢への興味を高めていったイギリス市民。その要求に応えるように発行されたのが、この世界のニュースを伝える挿絵入り新聞です。幕末明治期にかけて日本で起きた事件などの記事も載っているんです。取材の為に日本に派遣された一人、チャールズ・ワグマンを、高橋由一や五姓田義松などに洋画を指導したことでご存知の方も多いいのでは。3F 閲覧室には日本の記事に特化して一冊にまとめられている本もあります。

『描かれた幕末明治：イラストレイテッド・ロンドン・ニュース：日本通信：1853-1902』イラストレイテッド・ロンドン・ニュース編 雄松堂書店 3F 閲覧室 210.59||Ka 44

2つの資料を見比べて見るのも楽しいですよ。大型資料ならではの迫力をぜひ体感してくださいね！



展示の様子。マニアックな本が並びます。

#### 滑稽新聞：完全版 復刻 11-20号 (宮武外骨此中にあり)

宮武外骨 (みやたけがいこつ)、これが戸籍上の本名であるというだけで一度聞いたら忘れられない人になりますが、この人はもう生き様がすごいです。この方、最初の滑稽新聞を若干20歳で発刊して以来、いくつかの新聞を発刊するのですが、滑稽新聞を発刊中だけでも発禁になるわ、なるわ…その数20回以上。本人、関係者の入獄も罰金刑も数多く。大日本帝国憲法発布の絵を風刺して、天皇陛下を骸骨にしたりしているのですから…問題になったことは想像に難くありませんよね。反権力のジャーナリスト精神が凄まじい。大阪人に大喝采を浴びたという大阪滑稽新聞の方もぜひ見てみてくださいね。

どうでしょう？POPを読んで、「おもしろそう！」と思ったのではないのでしょうか？そうなんです！おもしろいです！ただ、難があるとすれば、そう、これらの資料はかなり表紙が地味なのです。さらに、重い。でかい。電動書架に入っている。手に取られるチャンスがなかなか巡って来ないかわいそうなお本たちなのです。

まず『滑稽新聞』を開いてみましょう。



「ソラソーヤ」の広告は実際に探してみてください。



こちらは皆さんご存知の「浅田館」。キャッチコピーは「たんせきに浅田館、すきはらにめし」(笑)。

滑稽新聞というのは明治期に発行されていた雑誌なので、中には現在の雑誌がそうであるように、たくさんの広告が掲載されています。

左図は「ソマトーゼ」という滋養品の広告。右端の人はソマトーゼを服用していない人。その隣がソマトーゼを飲み始めた人。その隣が毎日飲んで2週間目の人。その隣が1ヶ月服用した人。その隣が2ヶ月服用した人。どうです？たった2ヶ月でお相撲さんのような立派な体格に(笑)！もう、詐欺もいいところですが、なんだか笑えますよね。当時の広告はどこかユーモラスなものが多く、見ていて楽しいですよ。

しかも、宮武外骨がその商品を胡散臭いと思えば、勝手に広告を改変してしまいます。上記の「ソマトーゼ」は「ソラソーヤ」と書き換えられ、やせ薬になっています。「二ヶ月間ソラソーヤを行ひたるに立派な身体が痩せて線香の様な気持ちになれり」「此方法は日々の食物を半分或は三分一づゝ減ずべし、成程ソラソーヤ」。

広告の話ばかりしてしまいましたが、内容もちろんおもしろいです。当時の権力や権力者たちを批判するものなのですが、このやり方がなんとも粋で、カラッとした笑いのセンスにあふれています。ゴシップ記事が多いので色っぽい描写も…。その辺は今のオヤジ向け雑誌に共通するような気がしますね。文章もテンポよく、日本語のリズムが楽しいですし、挿絵はパラパラとめくるだけでも見応えがありますよ。スペースの関係上掲載できないのが残念です！！是非見てください。

では、『The Illustrated London News』はどうでしょうか？



襟元や脇差が逆になっている。

こちらの資料はとにかく大きい！POPにもありますが、大きいので、イラスト(カートゥーン)の迫力がすごいです。19世紀半～後期にかけて発行された新聞なので、当たり前ですが、当時の人が当時の世界のことを語っているため、歴史好きの方にはたまらないライブ感が味わえるでしょう！内容は英語で書かれていますが、頑張れば読める程度のもので、チャレンジしてみるのもいいですね。社会面だけではなく、スポーツや音楽、ファッションなどの記事や、「お悔やみ」なども読んでみるとおもしろいかもしれません。

英語はちょっと…という方には、POPにも掲載がありますが、日本についての記事がまとめられた1冊がおすすです。こちらは日本語訳されています。当時のイギリス人から見た日本人というのが、文章からもイラストからも見て取れておもしろいですよ。(なにげに、侍の影が深い！)ちょっとした描写に感じる違和感を、あなたもどうぞ。

いかがでしたか？これからも情報館の隅に眠っている「へえ〜」な資料を発掘しますのでお楽しみに！

# 情報館数珠つなぎ

スタッフインタビュー「情報館数珠つなぎ」のお時間がやってまいりました。情報館で働いている様々なスタッフの話から、どんな人やどんな仕事か私たちの情報館を支えているのかを知っていただけたら嬉しいです。それではインタビュースタート！（インタビュー：福山 賜）

情報館ではどんなお仕事をされているんですか？

受け入れを中心に、発注データを作ったりして、目録さんに出来上がった本をお渡ししています。

受け入れ？

情報館に欲しい本の発注をかけることですね。

山田さんは情報館に来られてちょうど1ヶ月くらいでしょうか。

はい。そうです。ただ、情報館で働くのは初めてではないんですけれども。

え！そうなんですか？ちなみに以前いらしたのはいつ頃ですか？

10年くらい前ですね。2000年、2001年…あたり。

じゃあ結構変わってますよね？情報館。メディアセンターは去年リニューアルしたし。

そうですね。インターネットコーナーも2Fの真ん中あたりにありましたし、参考図書も2Fにありましたから。あの棟方志功の隣に。

え！？あれ、棟方志功なんですか？知らなかった…。隅っこの方にあるから、あまり注目したことありませんでした。その他はどんな感じでしたか？

そうですね。まだマンガの単行本が2Fにずらっとあって。マンガミュージアムに寄贈される前ですから。

噂で聞いたんですけど、tatamiコーナーに本物の畳が敷かれてたんですよえ？

そうですねえ。けっこうあの辺でござる寝されてる方もいらっしやったり。

ござる寝！？

ござるーんと寝転がってる方がいらっしやって、「すいません」で注意したんですけど、学生という雰囲気ではなかったの、一般の方かなあ？って思ったたら、実は先生だったんです（笑）。

先生だったんですかー！だめじゃないですか（笑）。もともとあそこはどういうスペースだったんですか？

畳の上に机をだっと並べて、壁に掛け軸を掛けて、博物館学の授業をされたら、…あとは憩いの場ですかね（笑）。

憩いの場ですかー。でもしゃべったりしちゃうんですね？

そうですね。でも、今よりはかなりしゃべれる図書館でしたよ。

そうなんですか！？

かなり賑やかな図書館でした。どちらかというと、食堂並みというか、食堂よりも賑やかでしたよ。

本日のゲスト



山田 理佳さん

(図書資料受け入れスタッフ)

えー！！そんなに！？

はい。

え、3Fが！？

はい。今、3Fのキャレルデスクは区切られてるじゃないですか。昔はそうじゃなくて、丸テーブルがぼんぼんぼんっと配置されてまして、そこで皆さん討論されたり、談話されたり…。

そうなんですかー。賑やかだったんですねえ。

はい。かなり賑やかでした。

じゃあ、学生さんの数も今より多かったですか？

多かったのは多かったですね。

あ、そうなんですかー…

なんかちょっと、学習する方には申し訳ないけれども…っていう。それで今のような勉強しやすい形にされたんだと思いますけども。不思議な空間でしたよ。レポートを必死で書いている人の隣で思いっきり雑談をしているという。

自由な空間ですねー…（笑）

はい。すごい自由でしたね。

10年前の貴重な情報を聞くことができました。本日はどうもありがとうございました！

# パンダパンの絵本のへや

情報館 スタッフ パンダパンがおすすめの絵本をご紹介します！！

今回のおすすめ

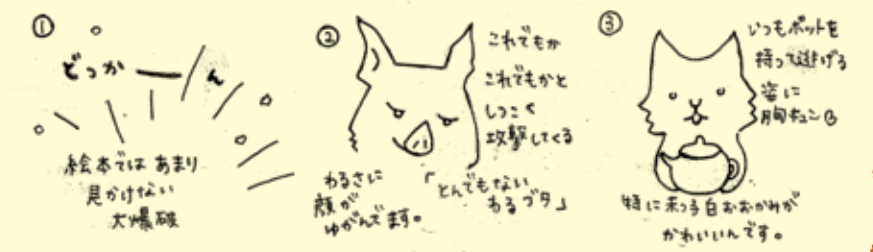
あらすじ

3匹のかわいいオオカミたちが広い世界を知るためにお家を出ることになりました。「わるいおおぶた」にきをつけるようにとお母さんから言われたオオカミたち。そんなある日オオカミたちの前におおぶたがあらわれ…



『3匹のかわいいオオカミ』  
ユーージン・トリピザス文  
ヘレン・オクセンバリー絵  
情報館所蔵：3F 絵本 726.5||Tr 5

ここに胸キュン♡



おすすめ度



## 1F特集コーナー通信



福山：今回ドキュメンタリー特集をやろうと思ったのはなんですか？

伊藤：これは、単純に、情報館にドキュメンタリーの資料が多いからです。なおかつ、日の目を見てないという。

松岡：そうですね。環境つながりが多いですけど…ドキュメンタリー資料はけっこうありますね。

伊藤：社会メディアとか、学科でジャーナリズム的な視点を学んだりすることもあるからですかね。自分でテーマを見つけてきて…みたいな。

福山：今回の特集で「これイチオシ！」っていう資料を選ぶとしたらどれですか？

松岡：やっぱ…『いのちの食べ方』（ニコラウス・ゲイハルター監督 情報館所蔵：1F視聴室 648||G 39||DVD）かな。

福山：どのへんがおもしろいんですか？

松岡：ひよこかなあ…

福山：ひよこ？

松岡：弁当の流れ作業みたいな感じでひよこが流れていく場面があるんですけど。ぼぼぼぼって…

福山：「びよ！（アクション付き）」って？

松岡：いや…

伊藤：「ずびょー！（アクション付き）」って？

松岡：いや…ピッチングマシーンみたいに出てくるんです。ひよこが。（以下、ひよこがどのように出てくるかを懸命に説明）

福山：とにかく、ひよこがたくさん流れてくるシーンがあるんですね。

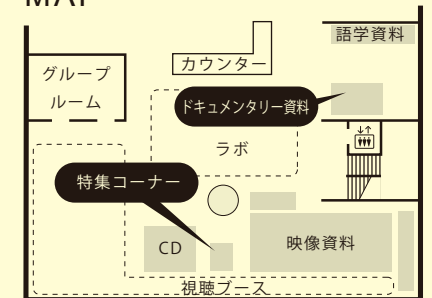
伊藤：いかに私たちが食べてるものが機械化されているかということですね。

松岡：そうですね。見ると大量生産のための工場のシステムがおもしろくなってきましたよ。

福山：それ、見てみたい！

みなさんは1Fに視聴覚資料の特集コーナーがあることをご存知ですか！？  
5月31日（月）から7月30日（金）までのテーマはドキュメンタリーです！是非、足を運んでみてください！

## MAP



企画スタッフの松岡&伊藤



# 情's 掲示板

情報館からのお知らせ & ご報告

## イベント

### 情報館特別展示

#### 人間国宝のステキな愉しみ ～富本憲吉のグラフィック・ワークス～

陶芸家・富本憲吉（1886～1963）が手がけた装幀本を中心にグラフィック作品の展示を行い、総合芸術家としての富本的一面を紹介します。

期間：6月28日（月）～7月24日（土）

場所：情報館 入場料：無料

7月1日（木）には対談会もあります！



### 平野甲賀の世界 長谷川四郎のソング

平野甲賀が愛してやまない長谷川四郎。詩、小説、翻訳、戯曲と広大な仕事を我々に残した、おかし男・長谷川四郎。四郎さんのソングを久保恒雄が朗読、平岩佐和子が作曲し歌う90分。

日時：6月14日（月）18:00～19:30

場所：悠々館2Fフロア

※情報館ではありません！ご注意ください！

さらに、6月15日（火）には対峰館T-420にて13:00からワークショップがありますよ。

### 七夕イベント

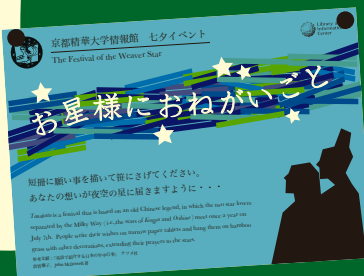
#### 「お星様にご願いごと」

今年もたくさんのご応募ありがとうございました。結果発表は以下の通り行います！お楽しみに！

日時：7月12日（月）10:00頃

場所：2Fコミュニティスペース

7月から情報館は七夕祭り。2Fフロアに笹が出現します！短冊に願いごとを書いてお星様に届けましょう★



## 図書館部門より

### 夏休み長期貸出が始まります！

期間：7月16日（金）～9月24日（金）

※ 雑誌および録音資料の貸出期間は通常通り1週間です

### 一般利用者入館制限

期間：7月16日（金）～7月29日（木）

本学学生の試験期間および、試験準備期間につき、一般利用の方々に入館をご遠慮いただいています。ご理解とご協力をお願いいたします。

## 博物館部門より

### ギャラリーフロールにて、展覧会開催中！

詳しくはこちらをご覧ください。

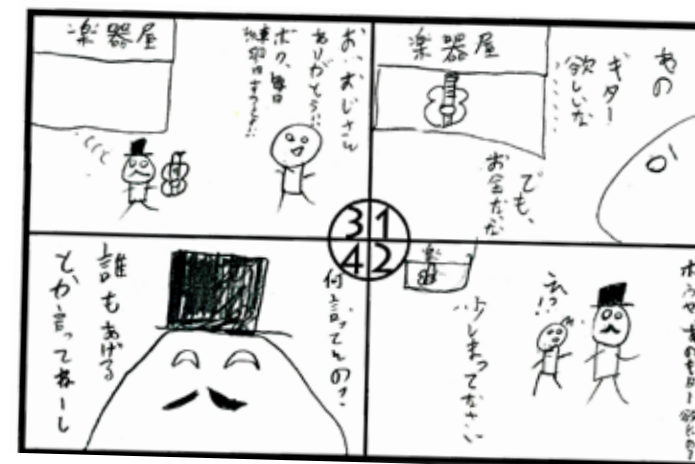
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/fleur>

### 雑誌貸出停止

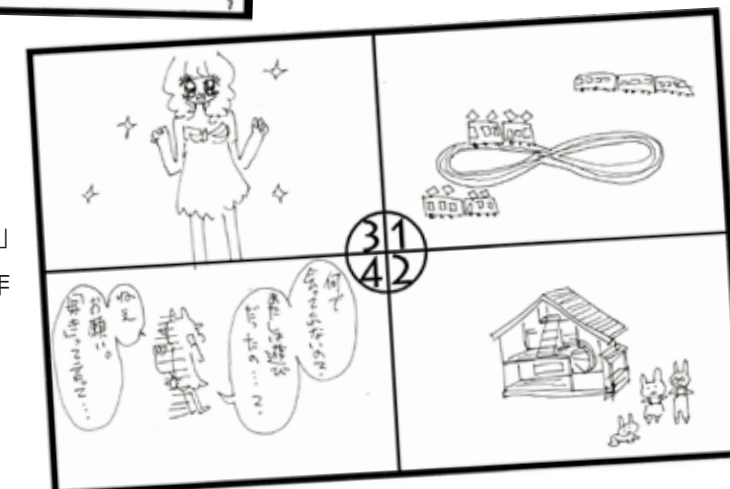
期間：7月16日（金）～8月31日（火）

※ 雑誌は製本作業のため、貸出停止になります

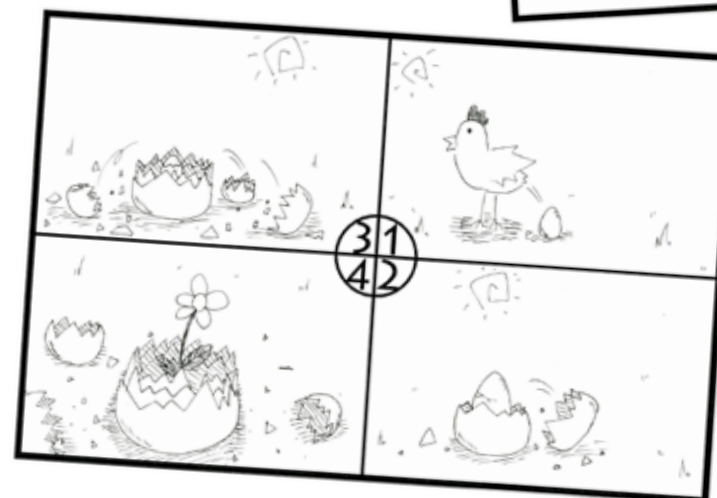
## 情's 四コマ劇場



「いともたやすく行われるえげつない行為」  
桑原ゆっくり・作



「オモチャ」  
きんぐさん・作



「たまご」  
いずみん・作

## 告知 『ザ・ベスト・オブ 情's 四コマ選手権』開催決定！ 作品大募集～！！

期間中に応募されてきた四コマ漫画のすべてを情報館に展示し、利用者の投票で一番おもしろいものを決定する選手権を開催します。最優秀作品はオリジナルTシャツにしてプレゼントします！また、応募作品はすべて情報館入口モニターで上映されるほか、優秀作品は情報館の広報誌「情's people」に掲載され、その中でも、編集長賞に輝いた方には粗品をプレゼントします。

募集期間：2010年6月7日（月）～2010年12月24日（金）（※投票は2011年1月の予定です）

応募方法：情報館で配布している所定の応募用紙に必要事項を記入の上、2F図書カウンターの専用ポストに投函してください

応募資格：本学の学生であること（1人何点でも応募できます）